

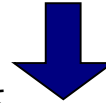
マルチメディア紙芝居

使いかた

- ・ この紙芝居は絵と文、および朗読がついています。



- ・ 文章、または絵のの前面にある をクリックするとその文章や絵の朗読が流れます。

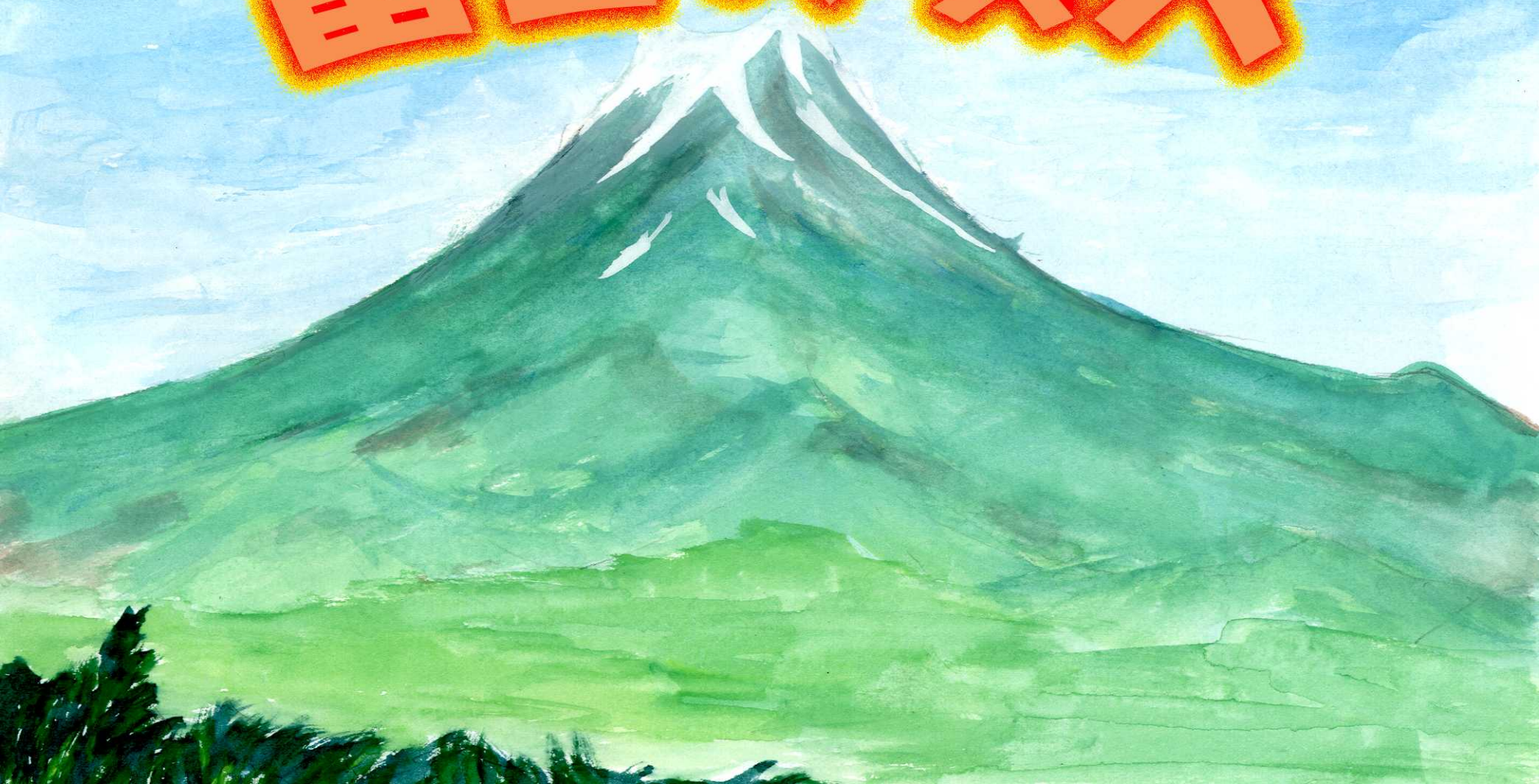


- ・ 次の絵、もしくは文章にいく場合には を、前にもどるときは



をクリックしてください。

ふ
じ
の
ふんか
富士の噴火









富士ふじのふんか

録音日： 2001年8月1日録音

朗読者： こぶたの会

録音者： 地域資料デジタル化研究会 日向良和

録音時間： 3分47秒

そうさなあ、むかし。

いまでこそあ富士ふじは美しい山うつくしいやまだがな、こうなるまでにやあいく度もいく度も噴火ふんかして、火をふいたり、溶岩ようがんをおし流したり、そりゃあおそろしい山だったそうじゃ。

きょうはな、なんしろむかしのことだから、うそかほんとかしらんけど、そんときの里さとのもののあわてぶりを話してみべえ。

なんしろな、あんだけ高い山たかがもつくりもつくり土つちの中からわき出してきただから、そのおそろしさといったら、ものすげえものだったそうじゃ。

ドドン、ドドーン

もりあがった溶岩やぶいをつき破やぶってな、まっかな溶岩がまたわき出すときなんどは、地鳴りじなはする、ふきあげられた火山灰かざんばいで空そらは暗くくなる、まったくこの世よのおわりかと思ったそうじゃ。

あるときもな、

ゴーゴーゴー

ドドーンドドーン

地震じしんと雷かみなりとがいつしよにきたように噴火ふんかがはじまったそうじゃ。

そんなとき、大目村おおめむら（北都留郡きたつるぐん）のもんたちゃあ、「そうれ、にげる。」

と穴あなの家いえからとび出したらな、目の前に見たこともねえ高い山ができてるじゃねえか。みんなびっくりしたのなんのって、

「こりゃあ、こりゃあ。」

と目をでっかくあけて、おどろいたそうじゃ。それっから、そこは大目村と呼ばれるようになったと言っ。

にぎおかむら おおつきし

また賑岡村（大月市）のもんたちあ、

「そうれ、また、お山の引っこしだ。こんどはあっちだ。いやこちだ。」

村じゅうのもんがあだこつだのにぎやかにさわいだっちゅうことだ。

おおあらしむら

お山に近い大嵐村（南都留郡）じゃあ、

あらし

「嵐がきたぞー。」

「こりゃあ、でっけえ嵐だ。」

噴火の音を嵐とまちがえるほどのあわてぶり。噴火が静まり、けむりのおさまったあと、によっきりそびえる富士を見て、
「やれ、やれ、岩が積もって天と地が続いちゃったぞ。」
びっくりしたことはがいまも残っているということじゃ。

となり

なるさわむら

みなみつるぐん

またな、その隣の鳴沢村（南都留郡）のもんたちは、

おおかせ

「きょうは、まあなんと大風だろう。」

みみ

うちの中で耳をおさえながら、ふるえていたというし、道志村

みなみつるぐん

ほうめん

（南都留郡）の方面じゃあ、

「こりゃまあ、どうしたんだ。」

「どうしべえ、どうしべえ。」

どうしていいかわからんで、あっちへうろつろ、こっちへうろつろしてたちゅうことだ。

ところがな、裾野^{すその}じゅうの村^{むら}っちゅう村が大さわぎをしているの
に変わりもんがいてな、

あすみむら ふうよしだし
明見村（富士吉田市）のもんだきやあ、

「こんなことは、よくあるこんだ。まあまあ、いやなことは明日^{あす}見^み
ることにしべえ。」

って入り口^{いりぐち}をかたくしめきってねてしまったそうじゃ。ふんかかも
のすごいもんで、ねてもたつてもいらんねえ隣村^{となりむら}のもんたちがかけ
つけてきて、

「おーい。こん村^{むら}の衆^{しゅう}よ、すげえのなんのって出てきて見^みらっせえ。
はんで、はんで。」

とさんざんとなったけど、起きなかつたもんでな、ひと晩^{ばん}のうちに
すっかり土地^{ちけ}のかたちがかわつちやつたから、とうとうこん村^{むら}じゃ

あ富士山^{ふじさん}が見^みられんようになっただと。